

.....編集後記.....

◆銀杏の緑が美しい季節になりましたが、皆様はいかがお過ごしでしょうか。

◆さて、巻頭エッセイは前企画室長の野田徹郎氏にお願いしました。私はおおいに反省させられました。皆さんはどうでしょうか。

◆特集「地質年代測定法の進歩と応用Ⅱ」は1995年に第9回地質調査所東京講演会で発表されたもののうち、今回は学習院大学の福岡孝昭氏と京都大学の田上高広氏にそれぞれウラン系列年代測定によるマグマ活動のタイムスケールとフィッシュトラック法による付加体の熱年代学の紹介記事をいただきましたが、専門家向けかと思えます。

◆口絵および特集「放射性廃棄物処分と地質環境Ⅲ」は、地質構造の3次元可視画像化の試みを取り上げました。解説を書いてもらいました国際協力室の古宇田亮一氏の尽力により、データベースシステム(宮嶋 繁氏)、地下断面図作成法(迫垣内薫氏)、可視化の例(桜井英行氏)と流れのある記事になりました。昔、手書きで海底地形の立体化をしましたが半年もかかりました。最近では複雑な地質構造についても簡単にできるようで、コンピュータってすごいと思えます。

◆鉱物資源部の須藤定久氏にはインドシナの鉱物資源の原稿をお願いしました。今回はその序論としてインドシナの地質紹介です。我が国は鉱物資源の多くを外国に依存しており、外国の資源情報を理解す

ることは大事だと思いますので、次回の記事も期待してください。

◆地殻熱部からは高橋正明氏と笹田政克氏に地熱資源についての原稿を依頼しました。高橋氏には火山性地熱資源の形成への火山活動の影響について解説してもらいました。同氏は温泉の専門家です。いつか温泉の記事を書いてもらいたいと思っています。笹田氏にはインドネシアの地熱資源の開発状況を紹介していただきました。発展途上国と呼ばれた国々の最近の発展ぶりには目を見張るものがあり、我が国の資源確保の将来展望を語るとき、重要な観点だと思います。

◆環境地質部の丸井敦尚氏が地質調査所における井戸データベースの整備状況を紹介しています。近い将来公開されるとのことですので、多くの人々によって利用されることを期待しております。

◆6月号を編集してみまして、浅学の私には大変難しく思われました。現在、原稿を集めるのが大変な状況にありまして、研究発表会などを中心に原稿を依頼しておりますので、難しい記事ばかりになる場合があります。幹事会ではそれらの改善策を検討し、読者の皆さんに楽しんでいただき、なおかつ役にたつ記事も載せていくことにしました。例えば、「旅と地質」、「クラブ活動紹介」、「おすすめ巡検コース」などの記事です。このためには、読者からの原稿が必要です。皆さんのご協力を期待しております。

(編集委員長 有田正史)

地質ニュース編集委員会

委員長：有田正史

副委員長：石井武政

幹事：佐藤興平・今井 登・村上文敏・大熊茂雄

顧問：林 暉・石原舜三・大嶋和雄・高橋 博

事務局：総務部業務課広報係(山崎 浩・谷田部信郎)

〒305 つくば市東1-1-3 地質調査所

地質ニュース編集委員会

事務局 Tel. 0298-54-3520

Fax. 0298-54-3504

地質ニュースに関するご意見は編集委員会へ

地質ニュース	第502号	1996年	6月号
	定価	¥770	〒実費
1996年6月1日	発行		
編集	工業技術院地質調査所		
発行人	株式会社 実業公報社		
	代表者	林 光生	
発行所	株式会社 実業公報社		
	東京都千代田区九段北1の7の8		
	Tel. (03) 3265-0951(代表) 〒102		
	振替口座 00110-6-32466		
	麹町局私書箱第21号		
印刷	小宮山印刷工業株式会社		

©1996 Geological Survey of Japan

●本誌は東京都の霞が関政府刊行物サービスセンター、八重洲ブックセンター本店およびつくば市の友朋堂書店本店に常備してあります。品切れの際は店頭で注文してください。